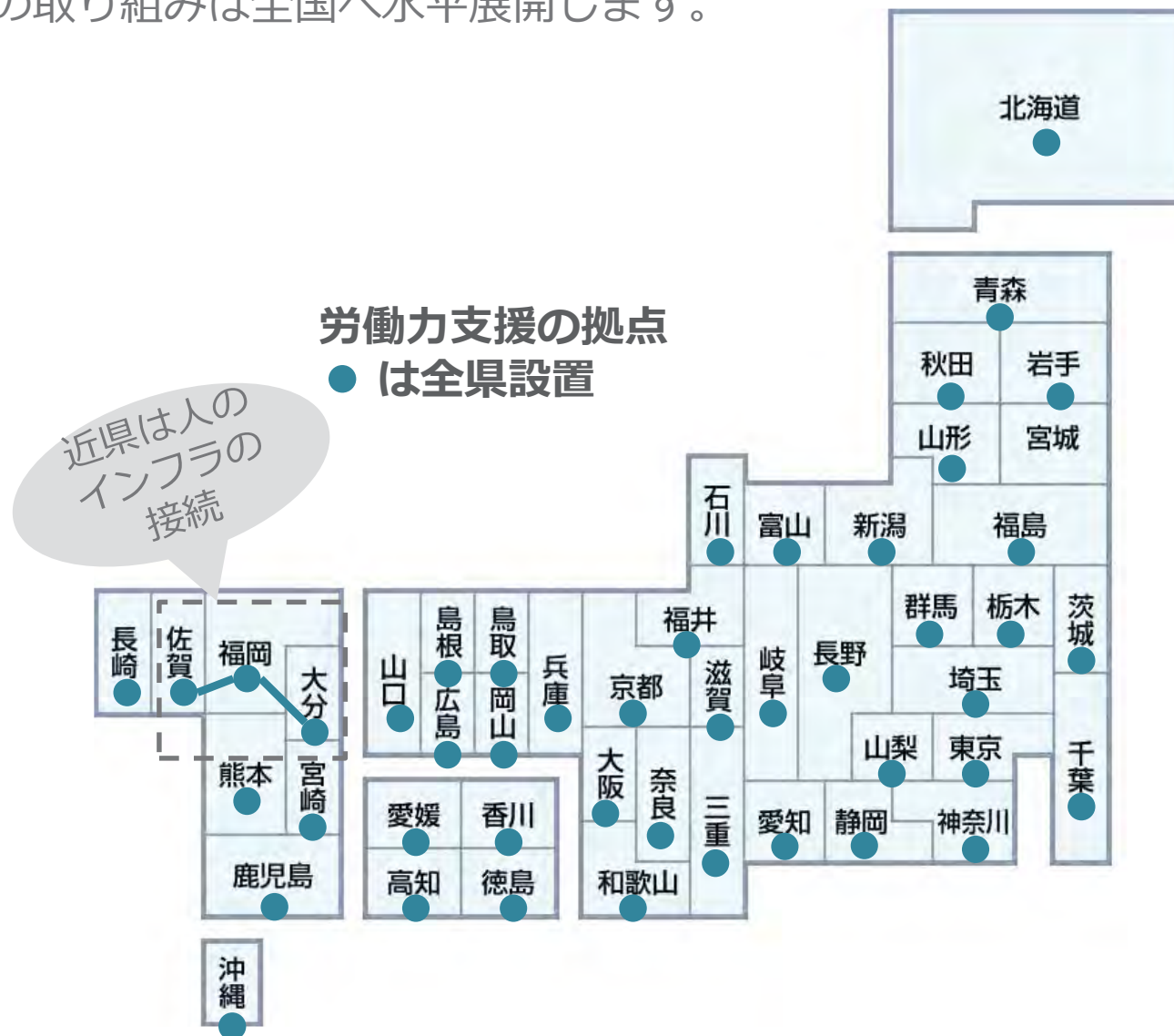


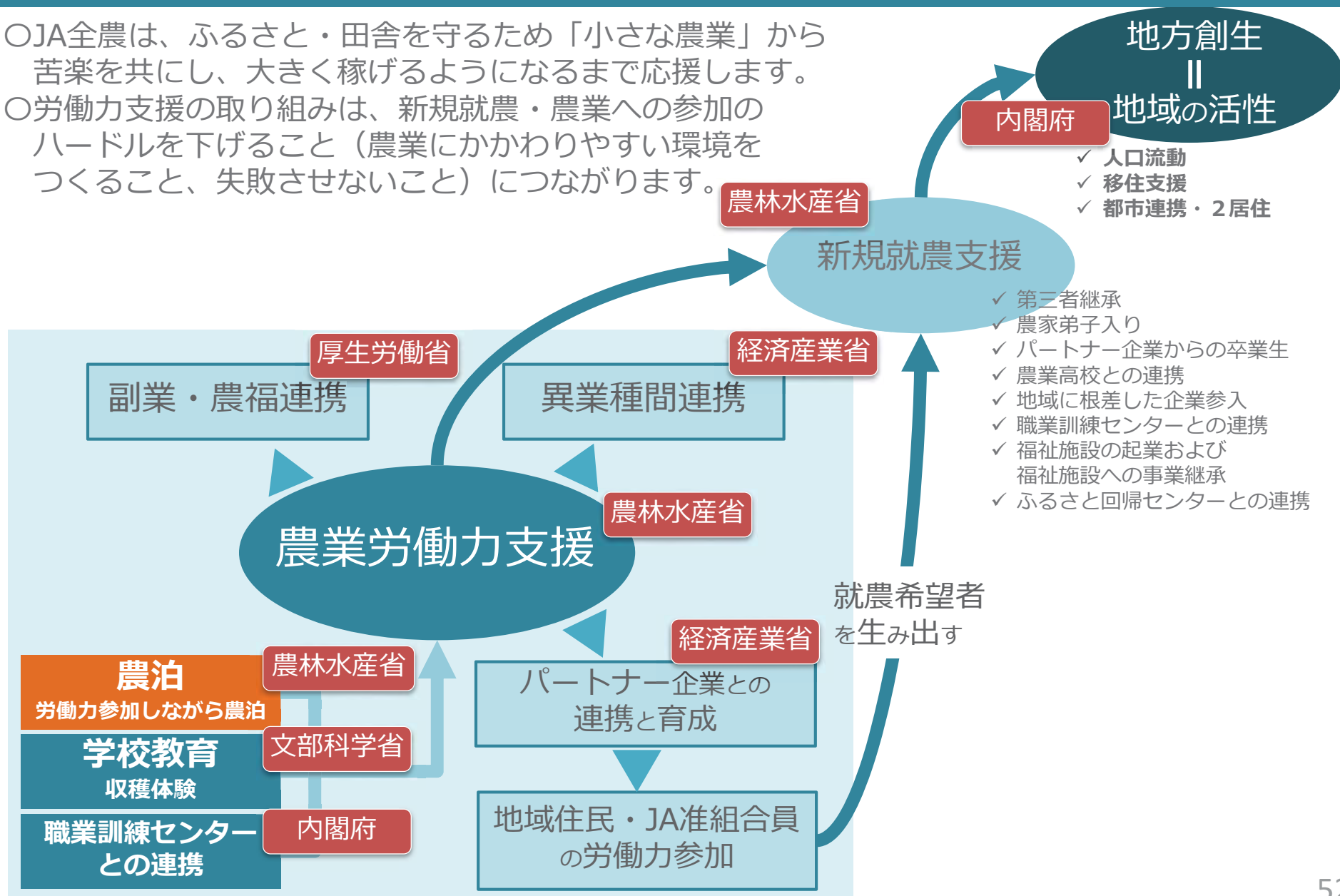
J A全農が思い描く地方創生（案）～日本を守り、農業を守る～

- 大分・福岡・佐賀では広域の労働力支援がスタートしています。
- 労働力支援の取り組みは全国へ水平展開します。



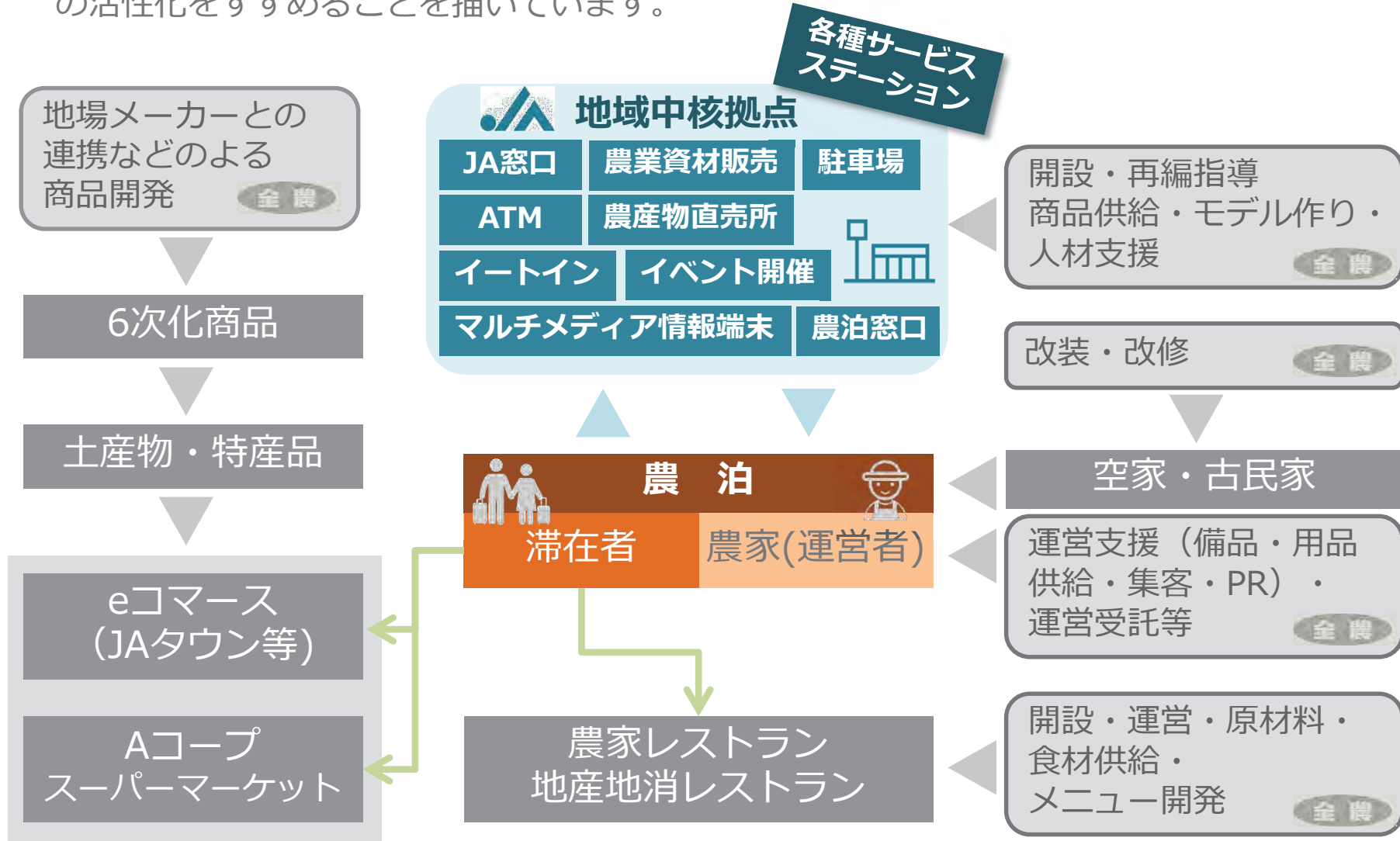
JA全農が思い描く、 農業（労働力支援）を核とした地方創生スキーム

- JA全農は、ふるさと・田舎を守るため「小さな農業」から苦楽を共にし、大きく稼げるようになるまで応援します。
- 労働力支援の取り組みは、新規就農・農業への参加のハードルを下げる（農業にかかわりやすい環境をつくること、失敗させないこと）につながります。



J A全農の描く農泊と支援事業

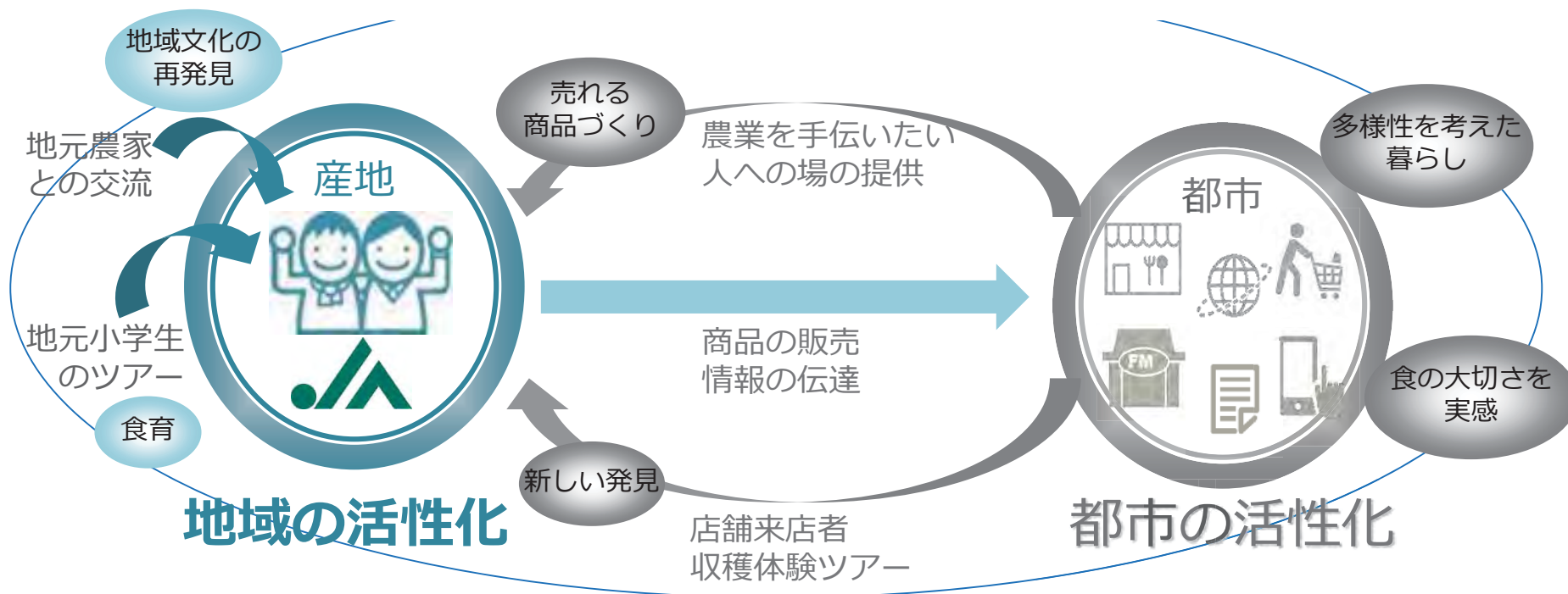
○JA全農はJAグループのネットワークを活用し、農泊の取り組みを支援することで、地域の活性化をすすめることを描いています。



生産と都市の現場をもっと近づける

地域全体の振興 ▶ 日本農業の発展 ▶ 日本の消費者のため

生産と都市の現場をもっと近づける



地域と都市の関係は持ちつ持たれつ。地域の活性化が日本の生産基盤を育て、結果、都市の消費者のより豊かな生活を支えることになる。

クラウド型営農管理システム「Z-GIS」の活用イメージ

- 「Z-GIS」は、担い手・農業法人の圃場・営農情報等を一括管理するシステムで、**平成30年4月に運用を開始**しました。
- 30年度の利用生産者・JA数は**150組織**であり、33年度**1,000組織**まで普及・拡大に取り組みます。
- 今後は、圃場ごとの品種や栽培履歴、農作業情報等の「見える化」に加え、気象情報、土壌診断結果、衛星やドローン等との連携など、**機能拡充に取り組みます**。



※本内容はイメージであり、今後連携する内容を含みます。

防除作業の省力化・生産性の向上に寄与する 完全自動飛行型ドローンの概要

- 平成31年6月上旬より、出資先の(株)ナイルワークスと連携し、防除作業の省力化および生産性の向上が期待される、**完全自動飛行型ドローンの供給を開始します。**
- 液剤散布機能に加え、粒剤散布や水稻の生育診断、「Z-GIS」との連動等の機能拡充に取り組むことで、普及・拡大をすすめます。
- 本会職員11名が国土交通省にオペレーターとして認定、今後も養成講習会の講師やデモフライト要員として、人員を拡大していきます。



【完全自動飛行型ドローンの概要】

①完全自動飛行

事前の測量により圃場を登録すると、飛行経路が自動生成。散布時はタブレットの「開始ボタン」を押すだけで、離陸から着陸まで自動飛行

②高精度飛行

センサーによる位置制御により、水平方向に±2cm、高度で±5cmの高精度飛行

【メリット】

- 圃場ごとの適期防除、中山間地や小規模農場等での防除が可能
- 高い精度での低空飛行により、圃場での散布ムラを抑制
- 種子散布や収量予測等の用途での活用見込み
- 全自動のためオペレーターは飛行中も作業が楽

畜産事業におけるICTの取り組み



	ファームノートカラー	モバイル牛温恵	うしらせ
現状課題	発情を1回逃すと25,000円／頭／年の損失 ※搾乳牛の場合	牛の分娩事故は約6%。 1頭あたり50万円の損失 ※和牛子牛の場合	出荷前の起立困難による肉牛の事故率は1%。1頭あたり120万円の損失 ※和牛の場合
ソリューション内容	人工知能が個性を学習し、活動量の分析結果から発情兆候を検知	母牛の体温を監視し、分娩の24時間前と一次破水時にメールで通報	肉牛の姿勢を監視し、一定の時間横臥状態しているとスマートフォンに通知
導入メリット	分娩間隔を短縮することで、収益損失を改善	確実な分娩立会いによる分娩事故の防止	放置すると窒息死する牛を管理者が起こすことで事故防止

平成30年度実績

1,800個

累計 1,842戸

23戸

JAグループのイノベーションラボ

○JAグループ全国8団体を社員とする一般社団法人 **AgVenture Lab** (アグベンチャーラボ)を設立、海外・国内の専門機関等とも連携しながら農業や地域の生活にイノベーションを起こすビジネス創出を目指す

本年5月27日オープン予定
大手町ビル

